

# 教育かしま

第 3 号

発行日  
平成20年2月15日  
発行  
鹿嶋市教育委員会  
連絡先  
鹿嶋市教育委員会 教育総務課  
Tel.0299-82-2911 (内線532)

地域の特色ある教育活動を応援し、開かれた教育環境を推進していくための情報を掲載していきます。



▲少人数数学級の授業風景

## 教育立市鹿嶋に向けて

### 少人数数学級編成

### 20年4月スタート

公立小学校・中学校では、

は、クラスの定員数を減らしたり、少人数でグループ学習したりする動きが広がっています。これは子どもの個性に応じたきめ細かな教育をすることで、学力の向上ばかりでなく、生活指導なども充実させることが狙いです。

鹿嶋市でも、子どもの個性を伸ばし、豊かな人間性を育むために学習・生活集団を少人数化するところがより効果的であり、かつ教師が子どもの多様性に応える教育活動を展開することが可能と認識しています。

近年、授業中にそれぞれ落ちて着かないなど学級経営が難しいとされる小1プレブルーム問題や、基礎・基本学力の定着など小学校1年・2年生での少人数数学級の必要性が求められてきています。市教育基本計画策定時のアンケートの結果でも、保護者の約80%、先生の約90%が25人から30人の学級編成を望んでいました。

こうしたことを踏まえて、鹿嶋市では平成20年度4月より小学校1年生を対象に30人学級を編成す

るものです。

内容については、現在茨城県が実施している「のびのびいばらきっこ推進事業（楽しく学ぶ学級づくり事業）」では、小学校1年・2年生の35人を超える学級を対象に学級編成の弾力化で「35人を超える学級が3学級以上の学校は1学級増（教員1名増員）、35人を超える学級が1〜2学級の学校は非常勤講師を各学級に配置」となっています。鹿嶋市ではこれに加え、4月からは市独自に1学級30人で学級編成を行っていきます。

この30人学級編成を実施するため鹿嶋市は、茨城県の基準から一歩踏み込んで、市独自で市費負担教職員を選考・採用していくことにしました。平成20年度の市費負担教職員の採用は、学級編成によりますが5人〜7人を予定しており、現在第1次選考試験と第2次選考試験が終了しています。20年度の本市独自の少人数学級編成は1学年のみですが、21年度から2年生にまで、拡大していきます。



# 地域に根ざした特色ある

## 教育活動の充実

「地域と共にある」学校づくり  
—豊郷小学校—

本校は、北浦の南西部に位置し、東側に鹿島台地、西側に北浦を望み、遠く筑波山に沈む夕日がきれいな自然豊かな場所にあります。

「自ら学び、豊かな心をもち、進んで体を鍛える児童の育成」を教育目標に、児童とのふれあいを大事にしながら「明るく楽しい学校」「美しく活気のある学校」「地域と共にある学校」をめざしています。

今年度の研究テーマは、「地域の特



▲海岸で汐を汲む4年生（荒野海岸で）

ぶ学習とつらえ実践しています。

3年生のテーマは、「知りたい聞きたい世界の国」（国際理解）です。地域に住む外国の方を招いての交流授業などを通して、いろいろな国の人たちが、様々な自然や環境の中で一生懸命暮らしていることに気づくことができました。

4年生のテーマは、「探ろう 守ろう みんなの自然」（郷土・環境）です。身近な自然「海」に着目し、郷土に伝えられる塩作り「文太長者」の伝説を学び、「塩作り」や「海岸清掃」を行いました。先人の知恵や努力を知り、「いのち」のも

とである「海」や「自然」を守ることの大切さを学ぶことができました。

5年生のテーマは、「米はみんなの宝物」（生産・勤労）です。地域の方の協力を得て、校内の田んぼで「米作り」。農政局の方をゲストティーチャーに「米のすばらしさ」や「米作りの工

夫」を学びました。すぐれた主食として、私たちの「いのち」を支えている「米」のすばらしさ、生産してきた人々の苦労や知恵を学ぶことができました。

6年生のテーマは、「広げようふれあい、見つめよう自分と地域」（福祉・ボランティア）です。社会福祉協議会の方のご指導をいただきながら、「アイマスク・シニア体験」「ボランティア活動」を行いました。お年寄りや障害のある方の立場に立って、精一杯生きたこと、認め合い励まし合うことの大切さを感じ取ることができました。

新指導要領では、総合的な学習の時間の削減が検討されています。しかし、本校では「生き方」を学ぶ大切な学習として今後も取り組んでいきたいと考えています。



▲育成会の手作り提灯を囲み、手を伸ばす子どもたち

「生き方」を学ぶ総合学習

—中野東小学校—

本校では、総合的な学習の時間を豊かな体験と人とのかわりを通して、「いのち」の大切さや「生き方」を学

性を生かし、自ら学び、豊かな心で生き生きと活動できる児童の育成をめざして」です。豊郷まちづくりセンター・農業公社・谷津田を再生する会・NPOアサザ基金など地域の多様な施設や人々とともに、特色ある教育活動を進めています。

活動の様子を2つご紹介します。一つ目は、毎年11月に実施される豊郷まつりです。豊郷まちづくりセンターを中心に、「鹿嶋の伝統である祭頭祭や提灯祭を子どもたち全員に体験させた」という願いから、太鼓保存会や育成会の協力を得て10月から練習に取り組んで実施しています。また、学習の成果を発表したり、自分たちで作ったお米やサツマイモなどを模擬店で販売



▲谷津田に通じる荒れた小道を整備する子どもたちと地域の人々

したりする活動もしています。二つ目は、北浦や谷津田を生かした環境学習です。

汚染された北浦へ流れ込む川の上流を調べたところ、荒れた谷津田に豊富なわき水があることや、沢ガニや川トロンボ・ホタルなどの多様な生き物が生息していることに気づきました。地域の人々の協力で「ホタルいっぱい谷津田にしよう」を合い言葉に、北浦や生き物にやさしい無農薬の米作りなどに挑戦しています。



### 卒業前にバイキング給食

#### ―鹿嶋市立中学校給食センター―

昨年12月5日の鹿野中学校を皮切りに今年の1月30日までに五つの中学校すべてで卒業を目前にした3年生への恒例のバイキング給食が行われました。

卒業祝いの思いを込めて、学校給食センター（大野中学校は単独で実施）が作っています。バラエティー豊かな料理を味わいながら、友達や先生と3年間の思い出に浸りました。



▲友達や先生とのバイキング

メニューは、赤飯やわかめご飯のおにぎり、ミニ太巻き寿司、デニッシュパン、揚げパンなどの主食にフライドチキン、エビフライ、さば塩焼き、厚焼き玉子、鶏肉和風マリネなど主菜のほかに、ゆで野菜や筑前煮、プチグラタン、花みかん、プチトマト、プチケーキ、ゼリーなど数多くの料理が並びました。

生徒らは、「食べられる量、栄養面などのバランスを考えて選ぶ、一度にたくさん取りすぎないように」と栄養士からの指導を受けながらも、中には、トレイに好みの料理を山盛りして満足顔の生徒も見られました。

バイキング給食は、提供された給食

をただ漫然と食べるのではなく、「なにを」「どれだけ」「どう選んで食べる」か、選ぶ喜びや楽しさを味わいながら生徒自身が食を通して健康づくりを考え実践できるように、いわゆる食教育に対しても効果があるとされています。

#### ▼数多くの料理の品々



▲一人ひとりトレイに好きなものを…

